

岩谷学園ひがし北海道 IT 専門学校

令和 8 年度 学校関係者評価委員会報告書
(評価対象期間：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

1 学校関係者評価委員会実施要項

開催日	2026 年 6 月 2 日 (火) 16 時～17 時 45 分
開催場所	岩谷学園ひがし北海道 IT 専門学校 101 号教室
参加者	【学校関係者評価委員】 長谷川 周栄 岩谷学園ひがし北海道校後援会 天野 英典 中標津町役場経済部 山宮 克彦 中標津町教育員会 中西 聖 北海道中標津農業高等学校 【教職員】 菅野 三夫 校長 大谷 昌生 学科長 小杉 拓駿 教員
評価対象	地域未来情報テクノロジー科 2 年制 農業酪農 IT コース・商工業観光 IT コース
配布・公開資料	事業実績報告書／学校自己点検・自己評価表／ 教育課程・授業時数及び単位数／学生数

- 委嘱状手交
- 校長挨拶
- 委員紹介
委員の出席および委員会成立を確認
- 会議

2 令和 7 (2025) 年度の学校事業概要報告

学校行事について	
	・入学式 (4/10) ・JA けねべつ スプリングイベントへのブース出店 (学校 PR 出店) (5/10)

	・地域向特別講座 Future Skills Lab (5/10) ・総合学習講師：別海町中央小学校 6 年生 (出前講座) (5/28) ・別海町立中春別小学校 講演講師 (出前講座) (5/28) ・標津高等学校全生徒 (出前講座) (5/30) ・北海道麺類飲食行生活衛生同業組合青年連合会研修 プログラミング講座 (6/3) ・北海道高等学校長協会 釧根支部根室ブロック研究協議会 講演講師 (6/17) ・標津高校生向け 特別講座 (6/21) ・岩谷学園 ×根室振興局 根室教育局包括連携協定事業 「知床ねむろプログラミングセミナー初級編」(7/29) ・なかしべつ夏祭りへのブース出店 (8/9～10) ・岩谷学園高等専修学校サマーキャンプ受入れ (8/19～22) ・まちなか賑わい秋の陣へのブース出店 (9/14) ・岩谷学園 ×根室振興局 根室教育局包括連携協定事業 「防災学ぶランド i n ねむろへの PR ブース設置」(9/20) ・根室地方 PTA 連合会研究大会・子育て研修会 中標津大会 講演講師 (9/23) ・総合学習講師：根室市立光洋中学校 3 年生 (出前講座) (9/24) ・北海道市町村立農業高等学校振興対策協議会 研究協議会 講演講師 (10/3) ・JA けねべつ オータムフェスティメントへのブース出店 (学校 PR 出店) (10/18) ・根室管内社会教育委員研修会 講演講師 (10/20) ・根室地域子ども会のつどい (10/26) ・学園祭 (11/16) ・なかしべつ冬まつりへの出展 (2/7～8) ・根室管内高等学校情報科教育研修会 講演講師 (2/8) ・岩谷学園 ×根室振興局 根室教育局包括連携協定事業 「根室地域商品パッケージ改善に係るワークショップ」(2/17) ・岩谷学園 ×根室振興局 根室教育局包括連携協定事業 「知床ねむろプログラミングセミナー特別編」(2/17) ・総合学習講師：別海町中央小学校 6 年生 (出前講座) (2/27) ・岩谷学園 ×根室振興局 根室教育局包括連携協定事業 「根室地域観光推進担当者会議での学生アンケート結果報告」(3/5) ・卒業式 (3/13)
教育交流事業について	
	・地域課題解決プロジェクト 地元企業に対するデータ分析プロジェクトの実証実験 (2025 年 4 月～2025 年 10 月) ・子どもゆめ基金

	～LEGO プログラミング講座～ (7/5) ・超ワカモノ会議 (IN ミーティング国際編) 日本語学校、IT 専門学校の学生と根室振興局・教育局との交流及び情報交換 (レゴプログラミング体験、地域の魅力) (7/10) ・子どもゆめ基金 ～LEGO プログラミングと電子工作～ (7/26) ・子どもゆめ基金 ～LEGO プログラミングと電子工作～ (8/16) ・第2回知床ねむろプログラミング大会事前セミナー 大会に向けプログラミング教材の操作方法に関する事前講習会 (11/22) ・第2回知床ねむろプログラミング大会 プログラミング的思考力を醸成し、DX 人材の育成や学校教育活動の充実を図る (11/29)
外部表彰について	
	・北海道私立専修学校各種学校連合会理事長賞「卒業生1名」(3/13) ・養老牛温泉旅館組合組合長賞「卒業生2名」(3/13)
外部から受託した事業や研修等について	
	・交通安全啓発 (インバウンド向け) 注意喚起ポスターとショート動画の制作の依頼「中標津警察署 10月～3月」 ・養老牛温泉活性化事業 PR 動画コンテスト 養老牛温泉周辺における四季の魅力を映像化し、中標津町訪問に繋げ地域の活性化に貢献する 養老牛温泉旅館組合・中標津町経済振興課・なかしべつ観光協会の依頼 「4月～2月」

3 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

令和7年(2025年)度の教育課程・授業時数及び単位数によりカリキュラム概要を説明し、自己点検評価報告をもとに、基準項目ごとに学校から説明がなされ、評価を行った。

	主項目	評価
1	教育理念・目標	目標とする人材像を定め、教育活動に取り組んでいる。 特色のある教育活動への取り組みをしている。 学生に対しては、学校の理念や目標、育成人材像を繰り返し説明し、理解を深める取組を継続する。定期的な面談や日

		常の指導の中で、将来を考えられるような声掛けなどを行っていく。 1.2 年生の交流を増やし、1 年生には先輩の姿を見せ、2 年生には後輩に見られているという意識を持たせることも必要。 各コースにおいては、目標とする人材像の育成に向けた教育活動を積極的に展開している。業界との連携や地域課題をテーマとした教育実践を進めることで、社会のニーズに対応した人材育成を図っている。
2	学校運営	当該年度で 2 年目ではあるが学校として学校運営の基本はできている。 学校の理念に基づいた運営方針および事業計画が明確に定められており、教育活動および学校運営に反映されている。また、情報システムの活用による業務効率化や教育情報の公開を積極的に進めており、教職員間の情報共有体制も概ね機能している。 特色あるカリキュラムであることから、企業連携による外部講師（非常勤・スポット）の取組は評価できる。 今後は、業務の効率化において、DX 推進「学生管理（出席・成績）、職員勤怠管理、経理業務など」の検討が必要である。
3	教育活動	教育活動についても基本はできしており、コースごとに特徴のある教育活動を展開している。 インターンシップや実技実習については、教育課程の中での位置付けを明確にし、体系的な実施を更に進めて欲しい。 キャリア教育や資格取得支援、実践的な授業を通じて、学生の専門性と職業意識の向上を図る教育活動を実施している。課題としては、キャリア教育の日本人と留学生の理解度の差が大きい実態があることから、特に留学生に対しての教育内容の見直しを通じて、教育の質の向上に向けた継続的な改善に取り組んで欲しい。
4	学修成果	成果発表や作品展示、研究発表等を通じて学修成果を学外に発信し、学生の学修意欲向上と教育成果の社会への発信を図っている。 評価判定基準や判定方法の学生への周知についても実施しているものの、理解の浸透という点では改善の余地がある。

		る。加えて、卒業生のキャリア形成や社会的評価については把握を行っているが、継続的かつ体系的に情報収集する体制の強化が必要である。 進級や卒業に必要な資格制度について、学生に明示することにより学修意欲の高まりが更に期待できることもあることから、検討して欲しい。
5	学生支援	在校生に対しては、相応しい支援がなされている。 欠席者へのフォローや、定期面談、必要に応じた面談など、対学生の為の時間をしっかり取っている。 留学生に対しては入学時オリエンテーションや日本社会・文化理解に関する取組を実施し、学校生活への適応を支援している。 課題として、留学生のゴミ出しや自転車の乗り方に対して苦情が寄せられているため、学生の多様化に伴い、学習面・生活面の課題を抱える学生への早期対応や、個別支援の充実についても継続的な改善が必要である。
6	教育環境	教育環境として専修学校設置基準を満たしており、基本はできている。 施設・設備については定期的な点検を行い、安全な教育環境の確保に努めている。 パソコンの卒業時学生への進呈は 2027 年度生より廃止し、更新については、価格高騰や新機能への期間が短いなどの理由からリースへ変更する。 課題としては、通信データ量が増えておりネットワーク速度の格差があり、改善の必要がある。
7	学生の受け入れ募集	開校してから 3 年目ということもあり、2026 年度も 50% 弱の在籍学生数となっている。 日本人学生が 5 名であり、2027 年度は日本人 10 名入学を目指して欲しい。 全国から学生を募集する新たな取組として、2027 年度日本学校農業クラブ特待生制度は大変インパクトがあり評価できる。 課題としては、留学生中心の学校というイメージが強いとの意見が寄せられている。日本人学生が安心して学べる環境であること、留学生と共に高いレベルで学んでいることを積極的に発信する必要がある。留学生の能力や地域での活躍事

		例を示し、誤解の解消に努める。
8	財務	定員を満たす学生数確保が最も重要であり、学生から選ばれる学校として継続していけるよう、教育の質の維持また向上の検討が必要である。 地域の活性化に寄与する目標に向かって、継続して創意工夫を期待したい。
9	法令等の遵守	関係法令および専修学校設置基準等に基づき、適正な学校運営を行うとともに、出入国在留管理庁をはじめとする関係機関への報告・届出を適切に実施している。 また、自己評価および学校関係者評価を実施し、その結果を公表することで教育活動および学校運営の改善に取り組んでいる。さらに、留学生の在留状況やアルバイト状況の把握を行い、適切な指導・管理に努めている。
10	社会貢献・地域貢献	地域貢献事業として根室管内をメインに、情報教育促進のため講演会、研修会、相談会などを無償で実施しており（実績：25 事業）評価できる。 これらの活動を通じて、地域の教育機関との連携を深めるとともに、学校の教育資源を地域社会に還元する取組を推進している。 単発的な出前授業にとどまらず、根室管内の児童生徒の情報技術に関する理解や技能の底上げにつながる体系的な取組として展開していく。 また、学生ボランティア活動については、地域からの情報収集と学生への周知を行うとともに、活動内容の把握を進め、教育活動との連携を図りながら学生の社会参加意識の向上につなげていく。 課題としては、講座の依頼や実施内容については個別対応となる場合もあり、体系的な取組として整理することが課題である。 また、学生ボランティア活動についても、活動機会の情報収集や参加状況の把握を行い、教育活動との連携をより明確にしていく必要がある。
11	国際交流	留学生の受入れにあたって入学後は、学修面および生活面の両面から支援体制を整備している。 また、入管法に関する指導や在留状況の把握を継続的に行い、不法滞在者の発生防止に努めている。加えて、学生の学

		習成果については発表や作品制作等を通じて学外へ発信し、教育成果の社会への周知にも取り組んでいる。 出入国在留管理庁における「適正校」の認定については現時点で認定に至っておらず、認定取得に向けた体制整備が課題である。 また、不法滞在や資格外活動違反等を防止するための指導については実施しているものの、アルバイト状況の把握や在留資格に関する理解促進について、継続的かつ組織的な取組を強化していく必要がある。 2026年度は、14ヶ国から留学生が在籍しており、多国籍の学校の国際的な視野を広げる人材育成に取り組んで欲しい。
--	--	--

総評

開校から3年目であることから学生確保が課題であるが、安定した運営、経営ができるよう努めて欲しい。

岩谷学園ひがし北海道日本語学校は、認知度がだいぶ上がってきたが、IT専門学校は、まだ地域以外で殆ど知られていない。認知度向上に向けて様々な地域活動を積極的に実践している。2026年度には、専門学校の留学生が90%以上を占めており、留学生と日本人と一緒に学び、国際的な視野を広げる人材を育成している。

多文化共生への学校の取り組みとしての多様性は「教育資源」と言えるので、日本語学校と北海道校として連携をして欲しい。

一方で、IT専門学校が留学生中心の学校というイメージが強いとの意見が寄せられている。日本人学生が安心して学べる環境であること、留学生と共に高いレベルで学んでいることを積極的に発信する必要がある。日本語学校と混同している一面もあることから、留学生の能力や地域での活躍事例を示し、誤解の解消に努める必要がある。

学生から選ばれる学校として継続していけるよう日本で唯一、教育と地域と産業が一体となる学びを実現するために、教育の質の維持また向上に努めて欲しいし、評価委員もそれぞれの立場で支援・協力していきたい。